

『海綿骨構造指標（TBS）が高値の 脊椎圧迫骨折患者における受傷機転の検討』 に関するご協力をお願い

研究の目的と意義	Trabecular Bone Score（以下、TBS）は骨の微細構造を評価するための指標です。腰椎DXA（骨密度測定）画像から算出される骨微細構造指標であり、骨密度とは独立した椎体骨折リスクの予測因子とされており、骨質の評価指標として注目されています。一方でTBS（海綿骨構造指標）が比較的保たれているにもかかわらず脊椎圧迫骨折（以下、VCF）を生じる症例が見られ、受傷背景は十分に明らかではありません。 本研究の目的は、TBS高値にもかかわらず脊椎圧迫骨折を生じた患者さんの受傷機転や背景因子をを比較検討することにより、従来の骨密度や骨質評価のみでは捉えられない骨折リスク因子の抽出につながる可能性があります。 また、骨折予防戦略の立案や転倒予防介入の対象者選定に有用な知見を提供し、脊椎圧迫骨折の予防および再発予防に寄与することが期待されます。
研究の方法	当院の骨代謝センターのデータベースのうち 2022年12月01日 ～ 2026年01月31日までにVCF（脊椎圧迫骨折）で当院を受診された女性60例を対象とし、データのうち、年齢・TBS（海綿骨構造指標）・受傷機転・骨密度（大腿骨、腰椎）を収集します。 既報のカットオフ値に基づき、TBS>1.23をTBS高値群、TBS≤1.23をTBS低値群に分類し、受傷機転を転倒など明らかな外力を伴うものを外力群、誘因なく発症したものを非外力群として、両群間の受傷機転の比較に統計解析を行います。
対象者	西暦 2022年12月01日 ～ 2026年01月31日 の間に、VCF（脊椎圧迫骨折）で当院を受診された18歳以上の女性の患者さん
利用する試料/情報	・ 研究対象者背景：識別コード、年齢、合併症、既往歴 ・ 骨指標：TBS（海綿骨構造指標）、BMD（腰椎骨密度、大腿骨骨密度） ・ 受傷機転 等
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録 等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	骨粗鬆症学会で発表予定です。公表する際には、研究対象者を識別することができないよう配慮します。
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2026年08月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。 ただし、お申し出が研究結果公表後の場合は、撤回することが事実上難しい場合があります。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 骨代謝センター・リハビリテーション部/理学療法士/梅村 浩太
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000（代表） 済生会横浜市東部病院 骨代謝センター・リハビリテーション部/梅村 浩太